

## 令和元年度国庫補助金

### 地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業

#### 「高良大社所蔵歴史資料調査」概要

#### ●事業目的

高良山は古代から近世にかけて、北部九州の政治・軍事・宗教上の重要拠点で、近代以降は筑後地域を代表する観光名所の一つにもなっています。

久留米市では、平成 29 年度より高良山エリアにおいて、文化財の状況把握と、保存活用のための基礎資料の作成を目的に、高良山総合調査を開始しました。その第 1 次調査として、平成 29 年度より 3 か年の計画で高良大社所蔵歴史資料調査を実施しています。

#### ●事業期間

平成 29 年 4 月から令和 2 年 3 月までの 3 か年

#### ●事業体制

事業主体 久留米市

事業組織 統括・経費執行事務 市民文化部文化財保護課（文化財保存活用チーム）

#### ●調査内容の概要

##### 【全体調査計画】

- ①資料のクリーニング（塵埃の除去、劣化防止のための養生）
- ②資料 1 点ごとの調書作成（名称・年代・作者・品質形状・法量・内容等）
- ③資料 1 点ごとの概要写真の撮影
- ④調書のデータ入力による目録作成
- ⑤調査成果の周知
- ⑥資料の保管措置（収納・配架等）
- ⑦報告書の作成・刊行

##### 【平成 29 年度】

古文書及び書画、近代文書（明治・大正期）を中心に、上記①～④を実施した。

##### 【平成 30 年度】

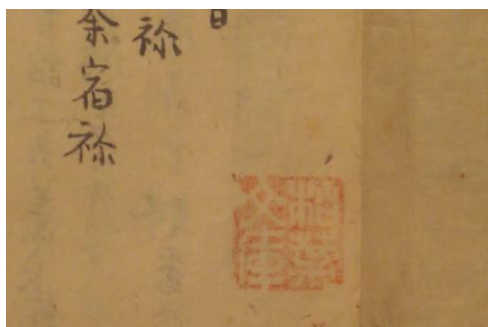
宝物館保管分の美術工芸品・考古資料、土蔵保管分の典籍類・近代文書（昭和戦前期）等について、上記①～⑤を実施した。

【令和元年度】

補足調査及び⑤を実施し、⑥・⑦を完了する。

●調査成果の紹介（一部）

名 称 筑後歴世古文書  
一・二・三  
時 代 江戸時代  
作 者 （矢野一貞）  
品質形状 縦帳  
員 数 三冊  
一：106丁  
二：120丁  
三：87丁  
法 量 一：24.2×18.0  
二：24.2×18.4  
三：24.4×18.0



幕末～近代の史家・矢野一貞が筑後地域各地で古文書を書写し編纂したもの。現在原本の所在が不明となっている古文書も収録されており、九州・筑後地域にかかる中世史研究には欠かせない史料となっている。但し、ほとんどの場合、篠山神社本が典拠とされてきた。高良大社本は、矢野一貞の蔵書印「柏葉文庫」が押されている。篠山神社本と同様に彼の自筆と見られる。両本を比べると、古文書の収録順や本文の配置がほぼ一致し、高良大社本の方に多く抹消・修正がみられることから、篠山神社本の前段の稿本として高良大社本を位置づけることができる。なお、所蔵の経緯は詳らかでないが、本調査対象である明治31年「社務受渡一件帳」の中の「儲書目録」に「一、歴世古文書 一部参本」と記されている。

名 称 擬宝珠

時 代 安永二年（1772）

品質形状 青銅製

員 数 二口

法 量 ①総高 43.0 底径 22.6

②総高 46.4 口径 22.8

胴部陰刻銘「安永二癸巳年

六月吉祥日

高良山御手洗橋」



元は高良山の放生池御手洗橋にあったもの。御手洗橋は江戸時代中期まで木造で、享和3年（1803）に石橋となる。この際、一部に安永2年銘の擬宝珠が再利用され、現在に至る。高良山御手洗橋は、福岡県指定有形文化財（建造物、平成14年指定）。本調査事業で、この擬宝珠2基が再発見されたことは、指定文化財の来歴に関するものとして重要である。

本事業は、文化庁地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。

